

こまえ平和フェスタ 2026 を終えて

こまえ平和フェスタ実行委員会

2026年9月6日（日）、狛江エコルマホールにて開催された「こまえ平和フェスタ 2026」（第21回）には、雨の降る中を300名の方々にご来場（出演者65名含）いただきました。

ロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるガザへの侵攻が続く中で、年初にはアメリカのベネズエラ大統領の拘束、2月にはイランに攻撃と、無法がまかり通るかのような世界の動きとなり、国内でも攻撃的兵器への転換など防衛費の2倍増、殺傷兵器の輸出の解禁が行われるという、かつてないほど日本も戦争に巻き込まれる不安を持つ中で、今年の平和フェスタが開かれました。

今年のテーマは「聴いて語ってつながる未来～コマエでつむぐ平和のカタチ～」です。狛江市と狛江市周辺の方たちと平和について語り合いました。舞台では小学生を含む平和フェスタ合唱団による合唱、中学生による朗読劇そして高校生の平和への思いを座談会で語り合うなど若者に焦点をあてました。ホワイエでは狛江市・調布市の平和事業、ちょうふピース部の活動、和光中学3年生の平和学習、また、公募作品による平和を願う絵手紙・ちぎり絵、俳句・短歌・川柳等に油絵「バレリーナの祈り」（ウクライナ支援）・パステル画「春 緑に囲まれた家」が提供され、オリジナルで多彩な展示となりました。展示は事前・事後にも別の場所で約一ヶ月半にわたり市民に鑑賞していただきました。

情報保障として例年の手話通訳と文字通訳を行ない、保育も準備しました（希望者なし）。

ご来場いただいた市民のみなさん、そして賛同広告や事前・当日協賛金など物心両面でご協力いただいたみなさんの平和への想いを支えに、計画通りのこまえ平和フェスタを無事に終えることができました。深く御礼申し上げます。市民の手作りによる平和フェスタを継続し、狛江市の平和文化の一端を担うために、今後も計画性を持って進めてまいります。

来年の平和フェスタは2027年8月29日（日）を予定しています。来年は会場いっぱいの来場者となるように頑張ります。なお、「こまえ平和フェスタ 2026」の詳細は（<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>）または右記 QR コードでご覧ください。



開幕宣言

こまえ平和フェスタ合唱団の子どもたちにより、「歌の練習はしてきたけど、平和についてあまり話してないよね？」と始まり、「争いが無いのが平和」「嫌な思いをしないのが平和」と、みんなの思いはそれぞれ！「平和につながる一步を踏み出そう！こまえ平和フェスタを、スタート！」

この開幕宣言は子どもたちで考えました。



開幕は「ドレミのうた」

（こまえ平和フェスタ合唱団）

「七つの音は歌を作る道具。みんなに歌を教えてあげましょう。」で始まる映画「サウンド・オブ・ミュージック」のシーンが流れる中、合唱団の子どもたちがステージ上で歌を披露しました。



ージック（1965）」の主題歌。先生の透き通った歌声と子どもたちが主役、開幕にふさわしく明るくテンポの良い歌声が会場いっぱいに響きました。指揮：大熊 啓 ピアノ：菊池リカ

司会は大熊歩さん（小6）と二階堂まりさん

大熊さんは2回目で、司会の中心を担いました。合唱団員で大忙しでした。二階堂さんは実行委員で、毎年朗読劇の脚本・演出をしています。名コンビでした。



佐久間実行委員長の挨拶

テーマに触れ、「平和を築くためには対話やコミュニケーションを大事にすることが大前提」と述べ、「政府はもっともっと対話による外交をすべき」（今年亡くなった河野洋平元自民党総裁の言葉）なのに軍備拡張や核兵器の保有などは、真逆と指摘しました。今回は「若者にスポットを当て、高校生に平和について語り合ってもらおうと座談会を設けました。普段あまり見られない企画であり、どんな思いや希望が出て来るのかとても楽しみ」「平和のバトンを次世代に繋いでいくためにもこういった場をもっともっと設けて」いきたいと締めくくりました。



松原狛江市長のメッセージ（二階堂実行委員代読）

「平和フェスタを通じて多くの皆様が平和について深く考え、感じ、そして行動するための機会となること心より願」い、戦争の記憶が若い世代に引き継がれていることに触れ、「今回の平和フェスタでも小学生から高校生まで幅広い若者が参加され」「一人ひとりが改めて平和の大切さを世代を超えて考え、後世に伝えていくきっかけとなることを期待」しているとのメッセージをいただきました。

三角武久市会議長のあいさつ

「いま、私たちの目の前には紛争や対立が横たわっている現実」があるとして、今年3月の定例会で『イランをめぐる軍事行動の即時停止と外交による平和解決を求める決議』を全会一致で可決しました」（会場から拍手）。しかし、現状は「紛争や争いが絶えない中で、特に子どもたちがその戦争、紛争の犠牲になることは大変、悲しみに堪えない」。平和フェスタ2026の企画を通して、「子どもたちが『平和に対する希求』、『人と人がつながる大切さ』を学び、次世代につなげ、その力が大きくなることを」期待したい。市議会として、『狛江市平和都市宣言』の精神の尊重を計りながら、平和で安心・安全なこのまちに長く住み続けたい、そんな街づくりに、一人ひとりの議員が、また議員どうしが力を合わせ取り組んでまいります」とあいさつ。



朗読劇「日本国憲法と私たち」

日本国憲法に書かれている大事なことを、中学生5人が演じました。出演者は恵泉女学園中高演劇クラブ有志のみなさん。また、昨年に引き続き、生のピアノ演奏付きです。ピアノは佐藤



久実子さん、脚本・演出は二階堂まり実行委員です。貴重な夏休みに10回も練習して本番に臨んだそうです。

日本国憲法が施行された1947年の12月に全国の中学生の副読本として配布された「あたらしい憲法のはなし」から始まり、「戦争の放棄」が謳われた経緯とその後に自衛隊を持ち、現在の軍備拡張の指摘と武器を持たずに平和を維持する手立てを具体的な事例で指摘。憲法を守るのは政府や国会議員等権力を持つ人であり、主権在民の意義を解き明かしました。最後に、第九条を読んで（第2項は会場全員で）、第1部を終わりました。



座談会「いま平和について思うこと」

高校生5人による標記テーマで座談会を行いました。ちょうふピース部からMさん（高2）、Fさん（高1）、Sさん（高2）、和光高校からNさん（高1）、Tさん（高1）、それに齊藤小百合先生（恵泉女学院大学教授 憲法・平和学）が進行役です。最初に齊藤先生が平和について自由に、想像力を持って多様なビジョンを模索するためとして、①集団・国よりも個人が大切にされること、②戦争とともに社会的不正義がないこと、安心して自分らしく生きられる社会 ③「力の支配」に屈することなく「法の支配」を作り上げることの3点を提起しました。その後、最初に「平和への思い」を一人ひとりの高校生が語りました。「いまは戦争なんてしている場合ではない」という意見を受けて、別の出演者が「日中戦争の時、仲の悪い中国の国民党と共産党と一緒に日本と戦うという。…同じように（今の）環境問題という一つの共通する敵（課題）に一致団結すれば良いのに」と掛け合いがありました。

次に平和を感じる時と場所について、語りました。「好きなことができ、好きな所に居ること」、「家族で旅行」「学校の教室」、「勉強したり、予定を立てているとき」、「当たり前でできている部活」、「全然思いつかない。当たり前が平和だと気付けないのかな？」と様々でした。そして、ちょうふピース部のMさんから和光の平和学習は自分たちの考えた通りに自由にできるのかと質問があり、和光のTさんは中学3年の平和学習はクラスごとに班に分かれ、各判で自分たちのテーマを決めて実行する。やりたいことは自由に探究できたと思うと返事があった。

その後、出演者から「自衛隊の印象」について会場に質問が飛び、来場者との間で応答があり、「（今回の座談会で）多様な平和のビジョンというのを、考える、考え続けるきっかけになるような材料だ



ったり、言葉だったり、それを持ち帰って頂けたら」(事前打ち合わせで出演した高校生の言葉)という言葉で締めくくりました。

合唱「見上げた空から」作詞・作曲 大熊啓 (こまえ平和フェスタ合唱団)

普天間基地に隣接する緑ヶ丘保育園で起こった米軍機部品落下事故から生まれた曲。♪きれいな空を 大きな空を 静かな空を 見上げ続けたい♪



閉幕

「狛江市平和都市宣言」を朗読劇の5人の中学生が朗読、最後の段落は会場全員で読みました。そして、恒例の市歌「水と緑のまち」を全員合唱しました。



展示 エコルマホール・ホワイエ (9月6日)

展示は①狛江市・調布市平和事業紹介 ②ちょうふピース部活動紹介 ③和光中学3年平和学習 ④平和を願う絵手紙・ちぎり絵、俳句・短歌・川柳 ⑤紙芝居「戦争と狛江の子どもたち」活動紹介 ⑥核兵器廃絶をめざして ⑦三小放課後クラブ平和の日 ⑧こまえ平和フェスタ22年の歩み ⑨油絵「バレリーナの祈り」(ウクライナ避難者支援) ⑩パステル画「春 緑に囲まれ



た家」他と多彩で、オリジナル作品が多く、絵画は展示会場を引き締めていました。例年通り、平和図書コーナー・折り鶴コーナーも設けました。展示は8/16～31まで、みらいテラス2Fショーケース・こまえくぼ展示スペースで、9/7～14 西河原公民館ギャラリー、9/16～30 こまえくぼ展示スペースで行われました。「三小放課後クラブ 平和の日」展示の前で